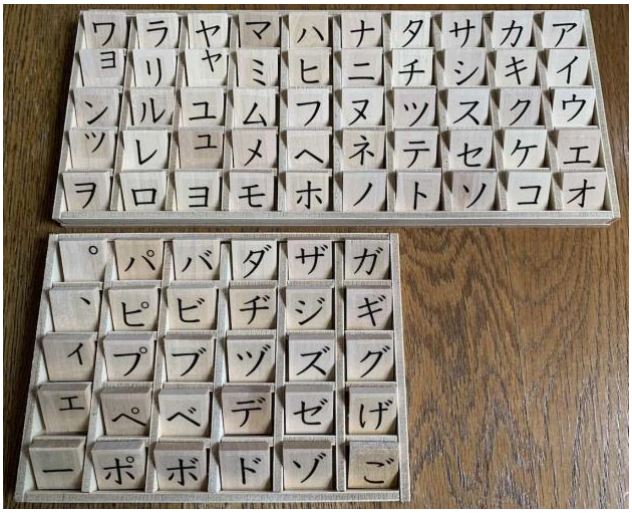
「ひらがな・カタカナ５０音盤」　を使った指導事例

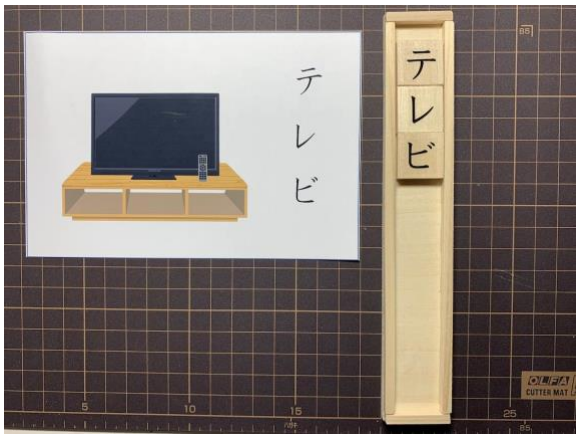
（1）ひらがな・カタカナ５０音盤について



上の左側の写真のように片面がひらがなで５０音順で並べてあります。清音と濁音を別々の箱に収納しています。ひらがなの反対側の面がカタカナになっています。「あ」の反対面が「ア」になります。ですから，ある単語をひらがなで並べた後で，裏返すとカタカナでの表記になります。拗音用の「ゃ・ゅ・ょ」促音の「っ」があります。また，外国語をカタカナで表記する時に使う「ァ・ィ・ゥ・ェ・ォ」があります。句読点の「、」「。」もありますから，文章の表記も可能です。

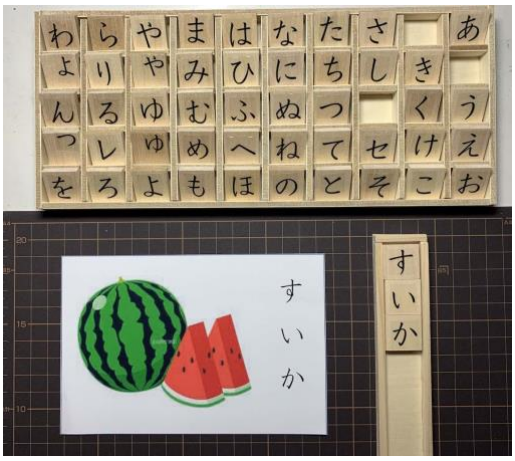
下の写真のように，各文字２個ずつ枠に収納することができ，取りやすいように，斜めに置くようになっています。

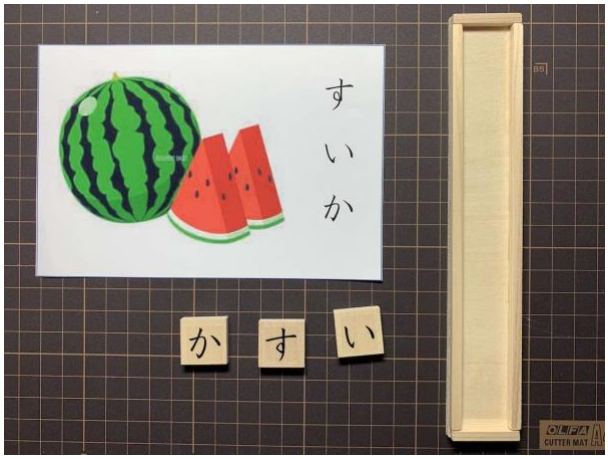
（２）絵カードの名称を５０音盤からひらがなやカナカナを選んで並べる。



絵カードを使うことで，効果的な言葉の学習ができます。

① ひらがなの学習の初めの頃は，５０音の表から必要な文字を探すことが難しいです。子どもの実態に応じて，提示の仕方を工夫することがポイントです。



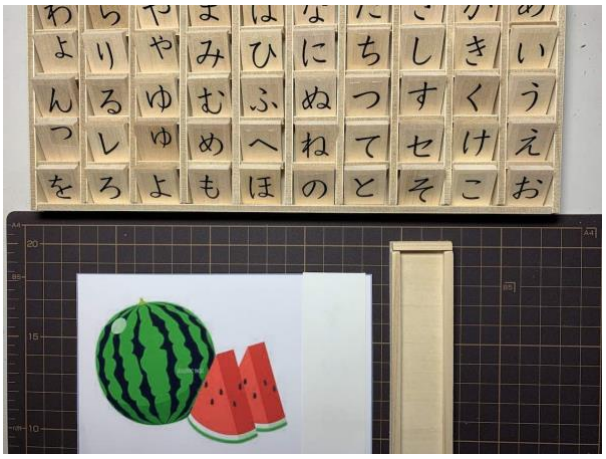


上の左側の写真は５０音表から「す」と「い」と「か」を探して取り並べた様子を表しています。右側の写真は，５０音表から「すいか」を構成するひらがな３字をあらかじめ５０音表から取り出して子どもの前にランダムに並べて，正しく並べさせる方法です。初めはこちらの方法が良いでしょう。もっと，初期の学習の段階では，子どもは，ひらがなを１字ずつ読むというよりもひらがなで表記された単語をまとまりで見て，判別する方が分かりやすいようです。その場合は，この５０音盤の学習の前段階として，単語カードと絵カードを合わせる学習をすることが良いと思います。

絵カードに書いてある文字を見て，５０音表からひらがなを探すことができるようになると，文字の上下左右もしっかり捉えることができています。それまでは，「い」と「こ」や「く」と「へ」などの区別が難しかったり，「め」と「ぬ」や「ね」と「れ」な

どの細かい部分の違いに気づけなかったりした文字が覚えられたことでしょう。５０音盤から特定の字を探すことで，それぞれの文字の違いに気づき，区別できるようになる子どももいます。そのような子どもにとって５０音盤は，学習にとても有効な教具となります。

② 絵カードに書いてある名称の文字を隠して，５０音表から文字を探して並べる。
５０音表を使っての学習の総仕上げになります。また，小学１年生は，ひらがなの次にカタカナの学習をするので，絵カードを見て，まず，ひらがなを並べてから，裏返してカタカナの表記を確認する。そのような使い方も良いです。



（３）工夫次第で様々な学習に使うことができます。
指導に用いることで，新しい使い方に気づくことができるはずです。ぜひ，有効に活用してください。子どもは，５０音表の学習を通じて，ひらがなとカタカナの学習を深めることでしょう。５０音の並びに気づき覚えることができれば，小学３年生からの国語辞典での学習が容易になります。または，国語辞典の単語の並び順を学習するときに，５０音表を提示して確認しても良いでしょう。